Your complimentary use period has ended. Thank you for using PDF Complete.
Click Here to upgrade to Unlimited Pages and Expanded Features

＊＊＊＊ほっとライフ＊

# ネクタイ選びのコツ

10月1日は「ネクタイの日」です。これを機に、ネクタイを選ぶコツを知っておきたいものです。そこでAll About「メンズファッション」ガイドの倉野路凡氏にアドバイスしてもらいました。

ネクタイは社会性を示す大切なアイテムであると同時に、その人のキャラクターを表現するアイテムでもあります。さらにネクタイの中にも格というものが存在します。それらをうまく使い分けて、ネクタイで自分らしさを表現して楽しみましょう。

◇

ビジネススーツをキリリと引き締めるのがVゾーンに欠かせないネクタイです。安価なものから高級品まで幅広くそろっていますが、長く使うことを考えれば、高品質のもの、天然素材のものがやはり基本。ポリエステル100％の安価なものよりシルク100％のもの、シルクにカシミヤやウール、コットン、リネンを混紡した天然素材のものがお勧め。特にシルク100％のものは基本中の基本です。

ネクタイの幅は基本的にスーツのラペル（下襟）幅に影響されます。例えば1970年代、幅の広いラペルのスーツが全盛期だったころは、ネクタイも10センチ以上ありました。現在の平均は8センチ前後です。流行を無視した極端に幅が広い、あるいは細いネクタイは避けたいところです。

柄については流行もありますが、基本的には無地、ストライプ、小紋、ドット（水玉）、ペイズリー（渦巻き）が代表的な柄です。ちなみに同じ柄であっても春夏は薄めの生地で色使いも明るめ、秋冬は厚めの生地で落ち着いた色のものが目立ちます。季節感を表現するのもネクタイの大切な役割です。

最も保守的な柄は無地とドットです。ネイビー色の無地とドットのネクタイはドレッシーな印象を与えることができるため、大切な会議のときなどに着用することをお勧めします。ネイビーやグレーのスーツにも相性がよく、必ず1本はそろえておきたい柄です。ストライプは多色使いのものより色数を抑えた2色使いのほうがドレッシーです。

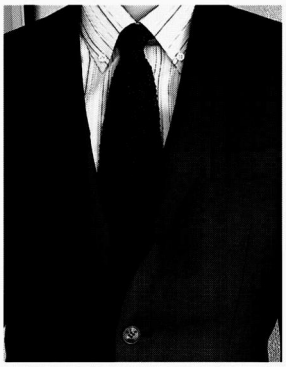
いつものワンパターンのネクタイ選びに飽きたら、少し流行を取り入れてみるのも高揚感が出ていいものです。この秋冬のトレンドは英国調のスリーピーススーツ。そんな重厚なスーツにはシルクにウールを混ぜたウォーミー（暖かそう）なウール混のネクタイがお勧め。また、英国と縁のあるペイズリーも注目されています。色も流行色のブラウン系を取り入れてみるのもいいでしょう。

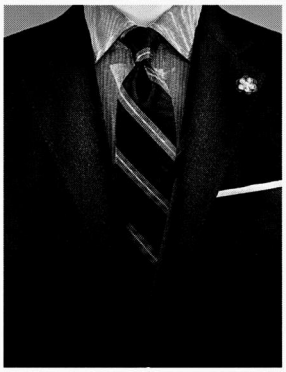
流行に関係なく、お気に入りの柄や色にこだわって自分を印象付けるのもネクタイ選びの楽しみの一つです。

例えば「無地のネクタイ」でいつもドレッシーな印象を与える、柄に関係なく「赤系のネクタイ」を締めてポジティブ（積極的）なセルフブランディング（自分自身を自らの力で表現）するなど、イメージづくりは自由です。ただし、派手な花柄模様や抽象絵画のようなデザインのものは品が良くないので、避けてください。

ネクタイ選びの近道は、基本的なことを守りながら、自分でアレコレ迷いながら選ぶことです！

## ○高品質な天然素材を選ぶ
## ○シルク100％が基本
## ○幅はラペルを基準に
## ○1本持ちたい無地、ドット
## ○秋冬はウール混がお勧め


無地


ストライプ（画像協力：東京ネクタイ協同組合）

ペイズリー（画像協力：東京ネクタイ協同組合）

女性のネクタイは、1980年代には女性の社会進出に伴ってスカーフや小ぶりなリボンタイがはやりました。さらにさかのぼれば、往年のハリウッド女優マレーネ・ディートリヒもネクタイを締めていました。

現在の女性にお勧めしたいのがボウタイ。日本では、ちょうネクタイと呼ばれているものです。メンズでもここ数年人気で、柄や色も豊富です。

## 女性はボウタイで合わせる

テーラードなジャケットにはもちろんのこと、ハイゲージニット（編み目の細かいニット）に合わせても面白いです。